

9月28日閉会の松戸市議会9月定例会にて一般質問を行いました

with コロナの生活での健康維持

みのわ信矢は、去る9月28日に閉会した松戸市議会9月定例会において登壇し、一般質問を行いました。巻頭でお伝えしたみのり台の歩道改修に関する質問以外の、2点の内容について紹介します。

まず、「コロナ禍で行動が制約された高齢者の健康維持について」です。コロナウイルスの拡大防止のため、いわゆる巣ごもりを強いられ、外出する機会が大きく減ったという人は多いでしょう。気になるのは、高齢者の健康です。外を歩くことが減り、運動量が減少することで、身体機能が衰えを見せることが懸念されます。若者と違って、高齢者が一度体力や筋力が低下させてしまうと、回復させることは容易ではありません。高齢者にとっては、痛みや不具合を感じることなく、日頃の生活を順調に送れることは、とても重要な事です。



また、高齢者の健康寿命をのばすことは、国保会計や介護保険会計にゆとりを持たせ、財政健全化も図れます。そのため、高齢者の健康維持や筋力・体力の向上につながる施策の展開を、早急に図るよう強く提言いたしました。

文化・芸術政策の一本化に向けて

松戸市の文化・芸術関連の施策は、社会教育課が主として担っています。教育委員会内に組織されている部署で、市内の美術・芸術団体とも連携を図りながら、常駐する学芸員の力も活用し、市民の文化的生活の質の向上に向けて施策を展開しているのです。

一方で、近年、その目的が曖昧で、効果がしっかりと検証もされず行われている施策が展開されていることを、議会内で問題視する声が高まっています。社会教育課と歩調を合わせることなく、目的も効果も不明瞭な政策を実施している部署は、経済部に属しています。部分的に暴走ともとれる施策を、経済の活性化と強引に結びつけながらも、しかしその実証的な効果は示すことなく継続することに、強い疑問を抱くものです。

公的政策は、全体の福祉に寄与することを、まず考慮するべきでしょう。一部の職員と、一部の文化好きの市民が、趣味の範囲で行うようなものであってはいけません。そこに、公金を投入する必要性と効果を、担当課は市民や議会にきちんと説明すべきです。そもそも、文化・芸術に関する政策を、部も違う2課で行っている構図が歪(いびつ)です。ちぐはぐな政策展開を止めるためにも、文化・芸術政策の一本化を急ぐべきです。

HPもご覧ください！ **みのわ信矢** 検索

連絡先 松戸市金ヶ作418-94



みのわ信矢 プロフィール

- 昭和42年 松戸市常盤平生まれ
- 昭和55年 松戸市立常盤平第一小学校 卒業
- 昭和58年 青山学院 中等部 卒業
- 昭和61年 青山学院 高等部 卒業
- 最終学歴 青山学院大学 経営学部 卒業

市議会議員としての主な経歴

- 松戸市予算審査特別委員会副委員長
- 松戸市決算審査特別委員会副委員長
- 松戸市立病院建設検討特別委員
- 教育経済常任委員長
- 都市整備常任委員長

その他の経歴

- ◇中央学院大学 法学部講師(地方自治論)
- ◇介護事業所 取締役
- ◇NPO法人地域政策研究所 理事
- ◇公益社団法人 松戸青年会議所 常任理事
- ◇松戸市子ども会常盤平地区 会長 など

趣味

- ◆楽器演奏(エレキギター)、読書、映画鑑賞
- ◆学生時代はバスケットボール部